

めざす児童生徒像

『豊かな知性と心もち、たくましく未来を生き抜く児童の育成』
 <知・徳・体の調和のとれた心豊かな児童>
 ・よく考える子(興味・関心をもち、意欲的に学び、自分の考えを深める子)
 ・思いやりのある子(自他を大切にし、協力してお互いを高め合う子)
 ・がんばりぬく子(自己の目標達成に向けて心身の向上に努める子)

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	達成状況の分析	改善策
学校重点項目(学校で設定)	人間関係力の向上	生徒指導 各項目の達成度を85%以上にする。	① 生徒指導の3機能を生かした教育活動を進めている	①②に関しては、教職員が意識的に取り組みを進めたり改善に努めたりしてきたが、児童や保護者との意識の差が若干見られる。③については、どの学年でも、友達に対する強い言葉が減る傾向にあり、自分の感情を抑えて関わるができる児童の姿が見られる。④については、縦割り活動の場で5・6年生が計画的に運営し、下級生をサポートする機会が増えてきた。	①②に関しては、さらに児童理解を進め、主体的に取り組むことができない児童に寄り添い支援を進めていきたい。③④については、今年度は高学年が人間関係づくりやリーダーシップのモデルを示すことができ、下級生も目指す姿として捉えて努力を進めることができた。6年生から4・5年生へのバトンタッチをスムーズにしながら、次年度も高学年がモデルを示すことを自覚して関係づくりを進めていけるよう、働きかけていく。
			② 特別活動における人間関係づくりの時間や主体的な児童会活動・縦割り活動を推進している		
			③ 発達段階に応じた人間関係の向上が見られる		
			④ 高学年のリーダーシップの向上が見られる		
			集計		
目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	達成状況の分析	改善策
いじめ・不登校早期発見・対応	生徒指導	生活アンケートや日々の観察・関わりによって得た情報を教職員が共通理解し協同によって、いじめ・不登校の早期発見や早期対応に努める	① 月の欠席が10日未満ではあるが、気になる児童がいる	時折登校渋りの様子を示す児童が3名見られた。管理職が保護者と連絡を取り合い、外部機関の紹介も行っている。担任と保護者との相談も続けており、自然な関わり、支援を進めている。渋りの原因が、他の児童との関わりではなく内面的問題として捉えられており、学校・保護者双方で児童の支援を進め、年度末には少しずつ改善の様子が見られている。	時折登校できないことに保護者も不安を抱えており、児童はもちろん保護者の気持ちも汲み取り、支援していけるよう、今後も連絡を取り合い、関係が途切れないよう努めていく。学年末、学年始休業日にも、児童の様子を見守り、保護者と連絡を取り合いながら、新年度のスタートがスムーズに行えるよう、働きかけを進めていく。
			② 月の欠席が10日以上の子がいる		
			③ 保護者や関係機関と連携し、支援の計画がある		
			④ 児童のための支援会議を行っている		
			集計		

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	達成状況の分析	改善策
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究 ①③の平均が90%	① 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている	①学校長を中心として各部会を組織し、概ね進めることができたが、英語に関しては、組織的に進めるには至らなかった。②話し合いについての研修を行い、話し合いのカードの共通理解やDVDの視聴によるモデルの意識化が教師も児童もできた。しかし、話し合いのカードの使用が難しかった。③学力向上パートナーシップの公開授業に向けて、交流の在り方、ねらいに沿った並行読書の選書等の校内研修ができた。また、3学期にある英語教育教科拠点地域事業に向けてもワークショップの定期的な開催をし、教員のスキルアップの研修ができた。④計画通りに全ての教員が授業研修を行うことができた。	①国語科での組織作りではなく、英語の取り組みを見据えての組織編成を考えていく。②学校研究での話し合いで使用できそうなカードの内容にする。③ねらいをもち、必然性のある交流になるように進め、英語での研究でも活用できるようにコミュニケーションにつなげる。④英語と国語の研究を行うので、組織編成を含め、計画的に行う。
			② 学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている		
			③ 指導主事や大学教員等の専門家が、校内研修の指導のために定期的に来校している		
			④ 教員一人一人が授業研究を伴う校内研修を計画的に実施している		
			集計		
授業	①②の児童の割合が、前期：70% 後期：80%	① 児童生徒が自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組んでいる	①前回の結果を受けて教師は意識して授業に取り組めた。しかし、児童の中では、課題を持って授業に取り組むという意識が薄かった。特に、4・5年生の数値が低かった。②話し合う活動は、授業の中に意識的に取り入れているが、児童の中で考えが広がったり深まったりしているということが教師の見取りとして難しかった。③前回の結果から教師が意識して手立てをとった。また、ICTなどの活用もすることができた。④自分のことばで書くことができた。課題に対する振り返りができた。⑤意識して取り組めた。しかし、学力調査問題の取り組みには問題が残った。	①高学年(新5・6年)の学習に対する意欲の向上を目指す。安心できる学級づくりを進める。②教員間で広げたり深めたりすることへの具体的な姿を共通理解する。その後、児童とも共有する。③視覚的な資料の提示をし、児童が資料(ノートや図や絵など)を使って発表する環境作りを推進する。④次年度も続けることで、より学習の定着を図る。⑤単元の初めに学力調査問題の資料を確認し、活用できるものを選んで取り組む。チェック表を統一し、指導計画に綴り、1か月ごとにチェックする。	
		② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる			
		③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している			
		④ 児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている			
		⑤ 一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行い、児童の資質・能力がどのように伸びているかを、児童生徒自身が把握できる			
集計					
学力の定着	学力調査・教科	国語の単元評価の問題の正答率が80%以上に算数の学期末の評価問題の正答率が90%以上にする	① 学力調査の自校採点の結果は全教職員で共有し、経年的な分析に基づいて、重点目標や具体的な取り組みが設定されている	・2学期の市・県の学力調査時に対象学年以外の学年も本校独自の学力調査を実施した。また、それらの結果について自校採点や、業者からの結果をもとに分析し、得意な設問や苦手な設問、児童の意識について全職員で共通理解し、3学期への取り組みに活かした。 ・学力向上ロードマップをもとに、各学期末に部会の反省をおこなった。2学期末には、部会のリーダーでそれらについて話し合い、3学期の重点取り組みについて確認した。 ・定期的に2小1中の3校による小中連携の全体会をおこない、3部会に分かれて「基盤作り部」では、学習規律で主に授業のスタートや挨拶を、「授業改善部」では、めあて-まとめ-振り返りの確実な実施を、「家庭学習部」では、家庭学習の取り組みの中のめあての意識化を共通取り組みとして進めた。 ・国語単元評価問題の正答率は83%、算数は87%で、算数は目標値には到達できなかった。	・2学期の学力調査では、分析作業の時間をとれず、学力向上担当教師が分析を進めた。全職員での意識化やより深い理解を進めるために、ロードマップや年間計画に時間をとり、全職員で分析し、重点取り組みを確実に実施できる協議を進めるようにする。 ・学力向上の各リーダーで協議をする時間は有効であった。来年度も各学期末には開催していきたい。 ・組織として進めるための部会は、定期的に開催することはできたが、各取り組みの担当の細分化までできておらず、全職員が自分の役割として取り組むことはできていなかったため、来年度は、部の中でも担当者を決め、個人としても役割を明確にし、全職員で推進できるようにする。 ・小中連携の全体的な取り組みは、概ね共通理解して取り組んでいた。しかし、各部会での学校の推進という点では、上記の各部会の取り組みと同様、全職員による意識は低かった。部会の活性化により改善していく。
			② 学力の重点目標や取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている		
			③ 学力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている		
			④ 学力調査の結果や分析について、近隣等の中学校と成果や課題を共有し、教育課程に関する共通の取組を行っている(小中連携)		
			集計		
家庭学習	家庭学習強化週間の達成率を80%以上にする。	① 自分で計画を立てて勉強している。(3年以上)	・ほとんどの児童が宿題をする習慣はついているが、自学の量や内容については個人差がある。 ・②の質問項目では、教員との数値の差が見られたが、児童はドリルやプリントなどを使って、復習やテスト勉強などを行っている。(ドリル・プリントを付け加える) ・項目④で保護者と児童の質問文を統一する。(すすんで)	・おすすめの自学を紹介する目的で全校児童の自主勉ノートを掲示した。友だちや上学年の良い内容を紹介し、家庭学習の改善を図った。今後さらに交流という形で、2学年で見せ合ったり良かったことなどを伝えあったりしながら、質を高めていきたい。 ・何ページ、何冊など目標を設定し、意欲を持って取り組ませたい。 ・めあてのある学習やふりかえり、力の付く内容など、自学の在り方について、教員が共通理解し、定期的に児童に伝えていく必要がある。	
		② 予習・復習やテスト勉強などの自学学習において教科書(授業でのノート・資料等)を使いながら学習している(3年生以上)			
		③ 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている			
		④ 宿題をしている			
		集計			